



# いわいずみ



P2 町村合併70周年と議会のあゆみ

主要な出来事と議会の歩みを総括します

P8 どう進めるか住み続けたいまちづくり

P16 町の考えを問う (8 議員が一般質問)

P21 町への施策要望

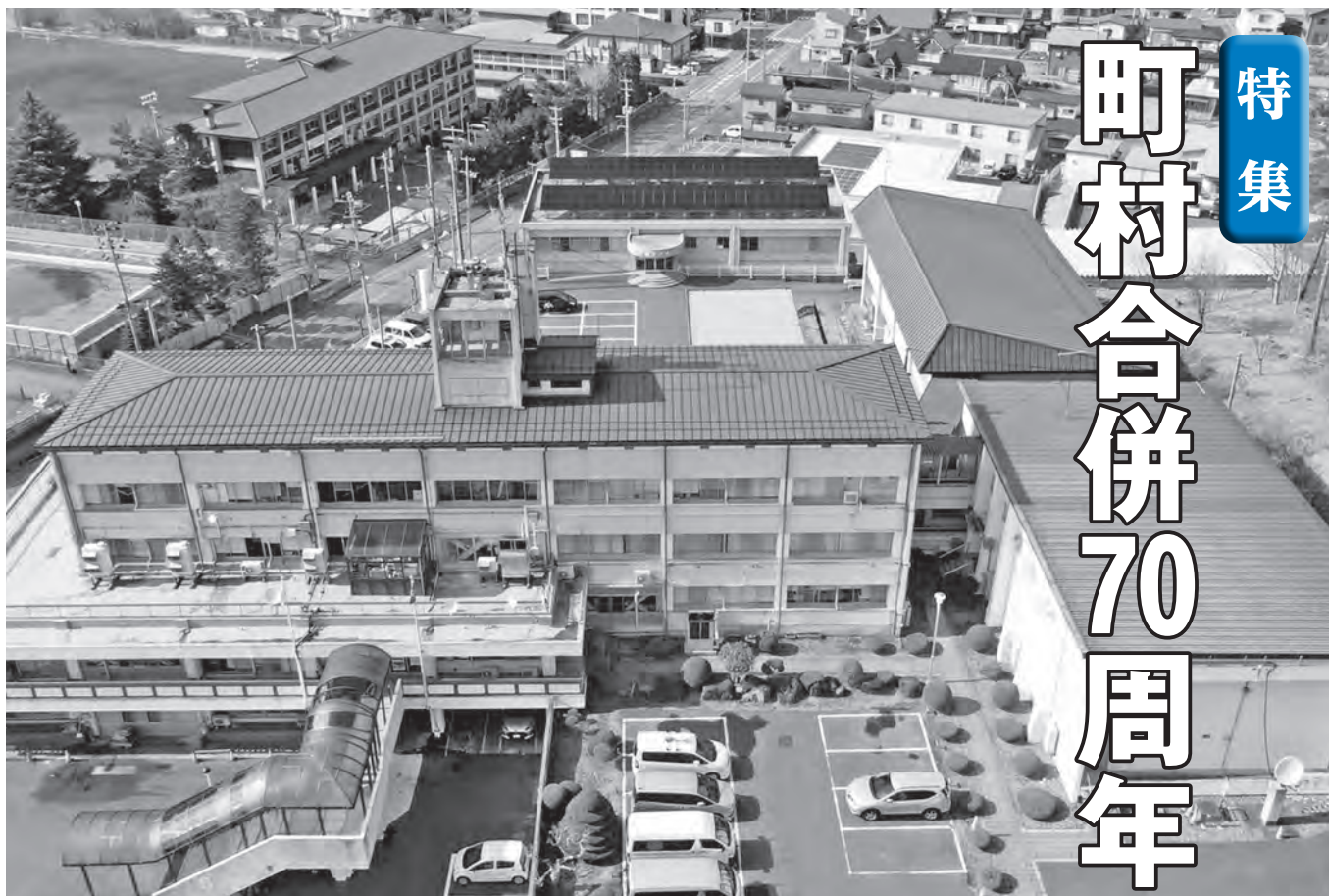
## シリーズ キラッと光る人 14

(株) meet me 代表の谷田川雅基さん (岩泉)

2026年1月にジビエ加工施設をスタート。狩猟体験やジビエ事業を通じて命の尊さや自然との共生を伝えていきたいこと、町内の皆様のご理解はもとより、ハンターの皆様からのご支援ご協力を得て運営できていることに感謝をしていると語っていました。感謝の気持ちを忘れずに今後も運営にあたりたいと意気込みます。

## 町村合併70周年

## と議会のあゆみ



昭和の合併から70年。私たちは今、先人たちが守り育ててきたこの町の歴史を受け継ぎ、次なる時代への分岐点に立っています。

激動の社会情勢の中で、議会は常に町の舵取り役として、対話と決断を繰り返してきました。

節目の年を記念し、これまでの主要な出来事と議会の歩みを総括します。この70年を振り返るとは、私たちが目指すべき「これからの町の姿」を描くための道標となるはずです。

### 岩泉町の歴史を振り返る

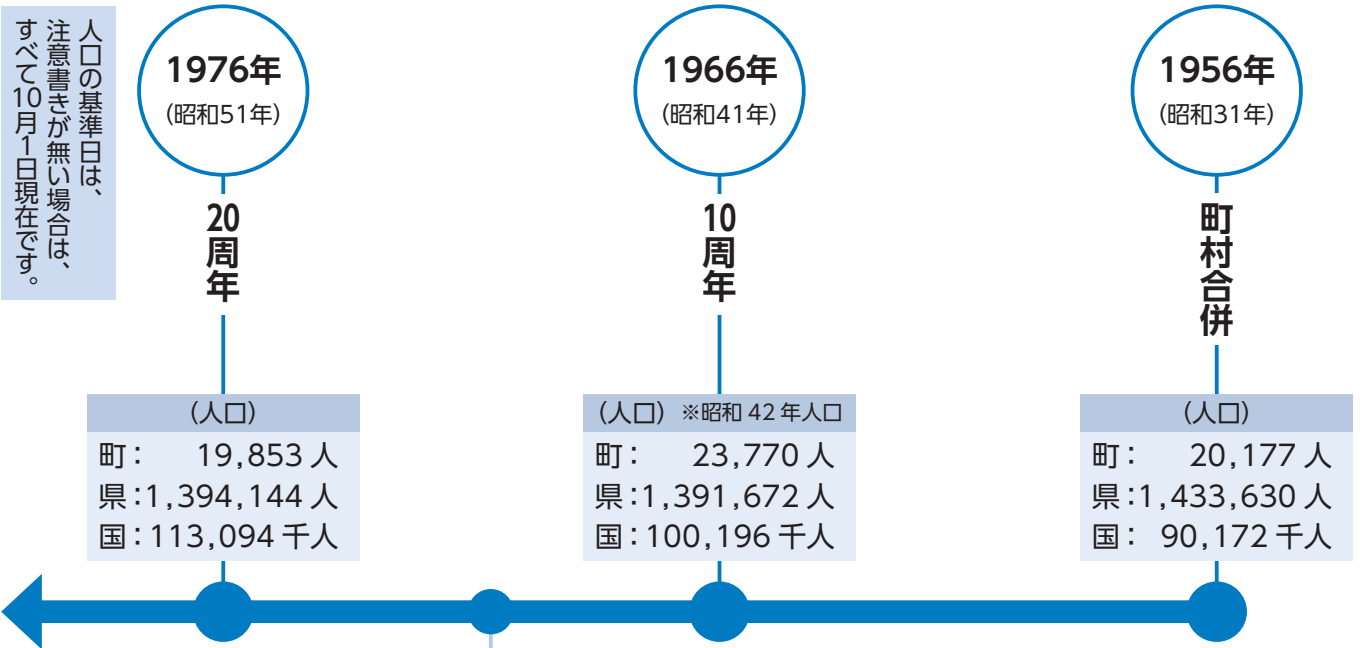
現在の岩泉町は、昭和三十一年九月に岩泉町・大川村・小本村・安家村・有芸村の一町四力村が合併し、翌三十二年四月に小川村を編入して誕生しました。わが国が戦後の復興期から高度経済成長

期へ転換する頃で、当町の人口も増加傾向にあり、昭和三十五年に二万七千八百十三人を記録しました。

現在の岩泉町を構成する各地区は、それぞれ独自の歴史を歩んできました。

中心部の岩泉は、南部藩直轄の宿場町とし

て栄え、大正時代に町制を施行。西部の小川は平安期に遡る歴史を持ち、戦国期の北畠氏による統治を経て明治に合併しました。南部の大川は、室町期の文献に地名が見える山村が統合して誕生しました。沿岸の小本は天正期に開拓され、江戸時代には鮭の加工場が置かれるなど活気を見せました。北部の安家は、藩政時代の代官所支配を経て昭和3年に独立。南東部の有芸は、その風光明媚な景観が地名の由来とされ、明治の町村制施行により現在の形となりました。



第13号



昭和48年3月  
議会報いわずみ創刊

**議員数  
98名から13名へ**  
半世紀にわたる  
定数改正の記録

合併時点の議員数は98人でしたが、時代とともに段階的に定数が改正されました。そして令和7年5月1日から13人となり、現在に至ります。

年	議員数
令和7年	13
平成29年	14
平成25年	15
平成21年	16
平成17年	18
昭和60年	22
昭和52年	26
昭和32年	30
合併当初	98

**議会だよりから見る  
議会のあゆみ**

ここからは、創刊号から町村合併周年毎の3月前後発行の議会だよりから、現在までの議会のあゆみを見ていきます。

**昭和48年創刊号**

議会だよりは、昭和48年3月20日に「議会報いわずみ」として創刊されました。当時の立花金次郎議長は「激動の時代に町はどう対処すべきか。産業振興、生活環境の整備、教育や社会福祉など、議会が向き合ふべき重大案件が山積しています」と述べています。当時の言葉から、現在もお通ずる重要な課題を当時から抱えていたことが伺えます。

**昭和51年(第13号)**

昭和51年の議会だよりでは、過疎対策や商工振興をはじめ、道路改良計画、バス等の公共交通政策、さらに農業後継者対策についてなどの幅広い内容の一般質問について取り上げられていました。

2006年  
(平成18年)

50周年

(人口)

町: 11,619人  
県: 1,374,699人  
国: 127,901千人

1996年  
(平成8年)

40周年

(人口)

町: 13,704人  
県: 1,419,612人  
国: 125,859千人

1986年  
(昭和61年)

30周年

(人口)

町: 16,671人  
県: 1,429,808人  
国: 121,660千人



第133号



第93号



第53号

平成18年(第133号)  
町村合併50周年の節目の本号では、龍泉洞みずまつりで幕を開けた当時の活気ある紙面を辿り、岩泉乳業の操業開始や過疎化対策の議論、さらに静岡県でのシイタケ・乳製品の先進地視察など、地域の産業振興と課題解決に奔走したことについて振り返っています。

平成8年(第93号)  
本号では、条例補正予算審査特別委員会にて、使用水量の差がなくなっている現状を踏まえ、営業用と家庭用で異なる水道料金の設定を同一にすべきと議会が追及しています。町当局もこれを受け入れ、負担の公平性を確保するために料金区分を統一する方向で改正が行われることとなりました。

昭和61年(第53号)  
盛岡鉄道管理局に対し、決議書を提出。昭和61年のダイヤ改正による岩泉線の上下各2本の削減や、浅内駅の無人化、始発・第2列車の1両編成化などの案に対し、反対の意向を強く示す内容でした。当時の鉄道維持に向けた切実な動きが記事から伝わります。

# 花咲く未来へ

2026年  
(令和8年)

70周年

(人口) ※令和7年人口  
町: 7,468人  
県: 1,126,813人  
国: 123,210千人

2016年  
(平成28年)

60周年

(人口)  
町: 9,643人  
県: 1,268,083人  
国: 126,933千人

台風第10号豪雨災害

2011年  
(平成23年)

東日本大震災



第214号



第174号



第154号



第155号

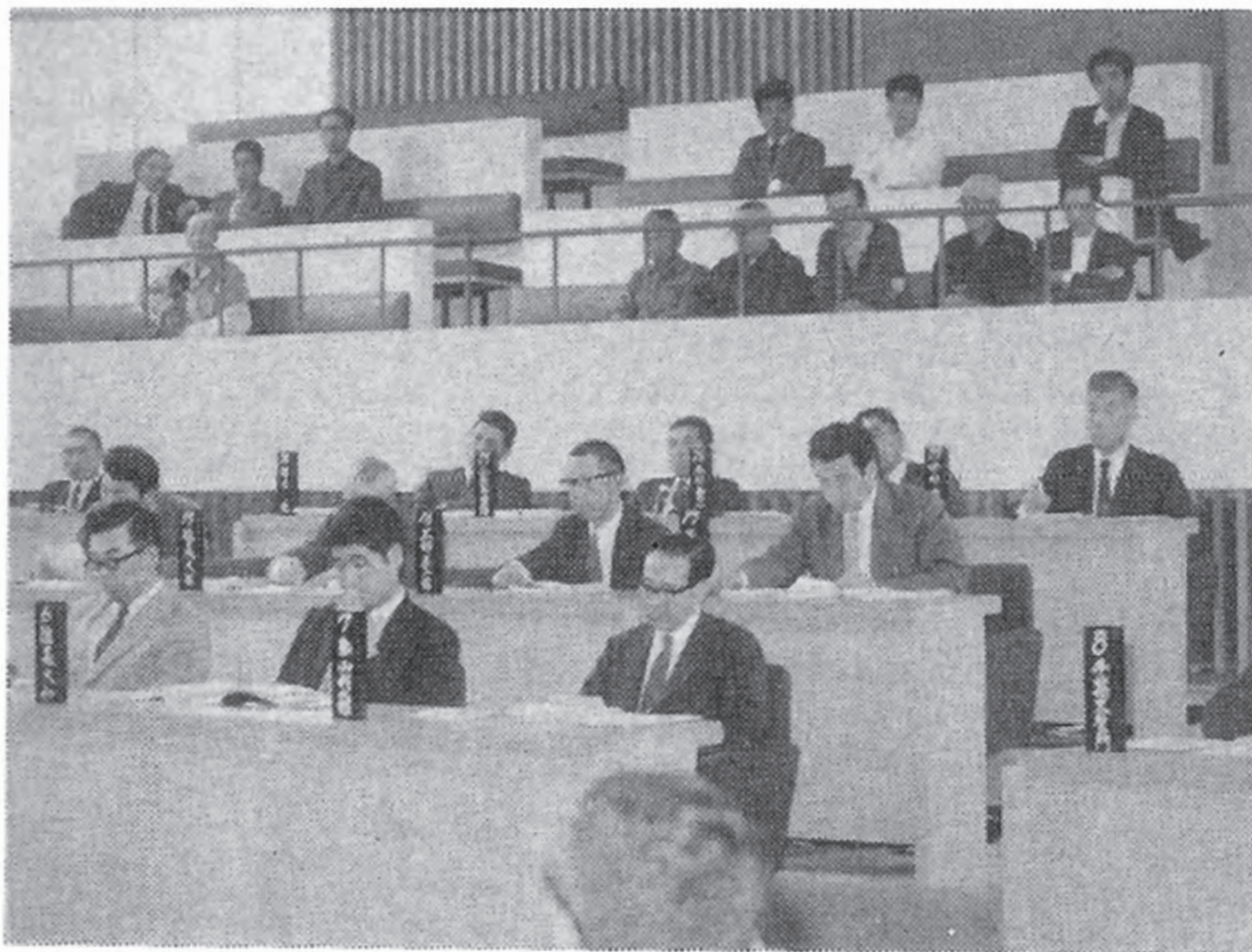
平成28年(第174号)  
本号では、完成した小本津波防災センターの通信確保・非常用発電機能の確認をはじめ、結婚相談員や子育て支援の体制充実、さらには遊休公共施設の活用や定住化対策など、地域の安全と将来の活力維持に向けた多角的な議論を取り上げていきます。

令和8年(第214号)  
町村合併70周年を迎え、過去の歩みを振り返ると、不変の課題に対し、決して屈することなく改善を積み重ねてきた議会の軌跡が見て取れます。これまでの取り組みを糧に、時代の変化を見据えながら、地域の未来を拓く議会の役割を改めて再確認し邁進してまいります。

# 議会

— 合併70周年、縁の人々に聞く秘話 —

当時の傍聴者、議会への関心度が伺えます



## 議案審議する本会議

町村合併20周年  
(議会だより13号より)

議会報第13号は、昭和50年第4回定例会の内容を伝えていきます。当時の議長は早野隆三さんです。

内容は、ほとんどが一般質問で、ほぼ全文が掲載されています。

5人が登壇し「産業問題」「財源見とおしと町長公約事業」「道路交通対策」「農業行政」「町長の政治姿勢と次年度の緊急施策」と多岐にわたる討論をしており、町村合併後の山積する課題に果敢に挑んでいる様子が伺えます。

表紙には完成間近の大牛内育成牧場の様子、中には、以前の済生会岩泉病院や町政懇談会・本会議場・特別委員会の様子の写真が掲載され、完成した龍泉洞青少年旅行村の施設も載っています。

全体的にインフラ整備面の情報が多く、当時の町の状況が伝わってきます。皆さんも手にとってみることをオススメします。



第13号

# つなぐ記憶、紡ぐ

## 記憶の糸をたどり 町の歩みを再発見

議会だより創刊号より



小松原進さん  
(盛岡市在住)

「議会報いわいずみ」を発刊当時、編集に携わったのは、職員としては前町長の中居健一君だった。議会報発刊の先進地と云われていた宮城県戸呂町に視察に出かけたのは、総務文教委員会に所属していた八重樫泰生君と私の二人であった。八重

**日本粘土閉山**  
私は日本粘土で働きました。平成8年に閉山してから30年が経ちますが、盛んな頃は働く人も多く、銀座とい



盛田安男さん  
(小川)

町村合併40周年  
(議会だより93号より)

樫議員は博識で、特に民謡を歌うことに優れていて、宿泊先の朝、起きて目の前の山林を眺めてたら一筋歌いだした。「朝の出掛けに山々見れば露のかゝらぬ山はないと」その見事な歌いぶりは今でも強く印象に残っている。随行した中居君は、外に出て私に向かって一言。「先生、俺は目の前に山が無いと落ちづがなごんす。」と云っていた。

10年前に撮影して頂いた家族は現在、ほとんどが町外へとそれぞれ道の歩んでおります。この10年間で人口減少、一次産業における担い手不足など様々な問題が深刻化。今後は定住対策として町営住宅の活用、一次産業においては特に育成牧場の運営改革を取り組んで欲しい。



阿部さんご夫婦  
(小本)

町村合併60周年  
(議会だより174号より)

うところに行ったことがなく分からなかったですが、名目入銀座ともいわれ、賑やかでした。今は、面影がないです。近くの人たちと昔の話しをしたりして暮らしています。

町村合併50周年  
(議会だより133号より)

いわいずみ再発見と題して町内の絶景スポットを紹介するコーナーがあり、シルエツトで捉えた一枚の写真が撮影者の名前と共に紹介されていました。「一度立ち寄ってみてはいかがですか？くれぐれも風のない時に」と、スリルを感じさせるひと言も添えられていました。そこで町内に住む撮



荷内川橋（吊り橋）記憶に残る一枚です



八重樫定津彰さん  
(岩泉)

影者を訪ねてお話をうかがいました。「膝までズボンをまくり上げ、川の中でシャッターチャンスを待っていたんです。写真仲間の間でも話題の撮影スポットだった」と懐かしむようにお話をされていました。

次は、定例会のあらまし

# どう進めるか 住み続けたいまちづくり



この光景が続いて行けるまちづくりが急務です。

8年第1回定例会は、2月19日から3月19日までの29日間の会期で開きました。

初日に行われた所信表明(※) 演述で佐々木真町長は「この町に誇りを持ち、一度離れた若者たちも再び戻りたい、住みたいと思える町を、町民の皆様と共に築いてまいりたい」と、新町長として行政運営の基本的な考え方を表明しました。

町長から提案のあった8年度当初予算を含む38件を原案どおり可決しました。

※所信表明とは…町長がこれから町をどう運営していくか、という基本方針や決意を表明するもの



所信表明を述べる  
佐々木町長



町長所信  
表明全文

## 町民と共に「チャレンジ」を

### 町長所信表明

(要約) 町長就任にあたり、災害を乗り越えてきた町民の底力と豊かな自然を生かし、希望あふれる岩泉町を築く決意を表明します。 市政運営の柱に「仕事・安心・未来」を掲げ、最優先課題として定住対策に取り組みます。 具体的には、一次産業の支援や射撃場整備 による鳥獣被害対策、地域新電力会社の設立、J-クレジット制度の活用を推進します。また、公共交通の充実や、防災備蓄倉庫の整備、小中学校への入学支援金導入など、全世代が安心して暮らし、学べる環境づくりを町民と共に「チャレンジ」していく所存です。

# 3つの花づくり



岩泉町未来づくりプランは、本町のまちづくりを進めるうえで、最も基本となる最上位計画。計画期間は、令和2年度から8年度までの7年間で、8年度は最終年度です。

「わいの花」の3つを掲げています。基本目標には「生きがいの花」「暮らしの花」「なり

町の将来像を描き、将来像の実現に向けた基本計画と重点的に取り組む施策、各分野で推進する施策を整理しています。8年度の主な事業を3つの花ごとにお知らせします。



岩泉町未来づくりプラン

誰もが健康で学び  
幸せな生涯が咲き誇る

## 生きがいの花づくり

- ◆子育て支援  
乳児等のための支援給付（こども誰でも通園制度） 40万円【関連15%】
- ◆教育環境の構築  
小中学校理科室エアコン設置 1276万円  
GIGA スクール端末の更新 3261万円
- ◆生涯スポーツの普及  
海洋センター大規模改修 2億649万円

地域資源を活用し  
新しい価値が咲き誇る

## なりわいの花づくり

- ◆農業振興  
いきいき農村基盤整備事業 129万円  
畑わさび圃場拡大事業 907万円
- ◆林業支援  
森林資源航空レーザ計測及び解析 2億123万円【関連10%】
- ◆観光の振興  
インバウンド誘客促進 120万円

安全安心で  
豊かな生活が咲き誇る

## 暮らしの花づくり

- ◆防災力の強化  
防災倉庫建築 3099万円
- ◆定住化の促進  
住まいるづくり事業 1810万円
- ◆町道の整備  
松野下山線の舗装工事 5000万円  
早坂1号線の舗装工事 5000万円
- ◆有害鳥獣対策  
岩泉射撃場整備事業 【関連10%】

## 討論

国民健康保険  
特別会計

### 反対

子育て支援は、国保会計からではなく、国の社会保障の予算拡充で進めるべき



林崎 隆次郎 議員

### 賛成

子ども子育て支援納付金は、国の制度であり、町当局は最善を尽くした予算案である



千葉 泰彦 議員

国は、国保などの公的医療保険に、子ども子育て支援納付金を課したが、子育て支援は社会保障の予算拡充で進めるべき。町民、国民負担増で行うものではない。診療報酬の引き上げ改定が見込まれる中、国保会計の運営状況は厳しく、低所得世帯の多い国保会計からの子育て支援納付金を支出する本予算案に反対する。

本議案は、国の定める社会保障制度の公的医療保険制度に該当するもの。国により定められ地方公共団体には裁量権がなく、子ども子育て支援納付金は、町当局において、最大限配慮の上、最善を尽くした予算案である。公的医療保険制度上のことについては、国、県への働きかけを検討する事案ではあるが、本予算に賛成する。

### 監査委員の選任に同意

空席となっていた町の監査委員に、武田保男さんを選任することに同意しました。監査委員は、住民に代わって町の行財政事務が法令に従い、適正かつ効率的に行われているかをチェックする独立した機関です。



### 教育長の再任に同意

町の教育長に巖岩千裕さんを任命することに同意しました。任期は4月1日から3年間です。教育長は、学校教育や社会教育（スポーツ・文化含む）の事務を統括し、会議を主宰・代表する特別職です。



# 森林資源を可視化 ～地域の価値と魅力を次世代へ～

令和8年度の新規事業のひとつが、「森林資源航空レーザ計測」です。広大な森林資源を可視化し、精緻なデータに基づいた資源管理を実現。町民の森林への理解を深め、身近な資源としての価値向上とJ-クレンジット活用を目指します。ほか、海洋センターの大規模改修や射撃場整備により、地域の基盤を強化します。

## 一般会計の当初予算額 98億円

8年度一般会計と5特別会計、水道事業会計、下水道事業会計の総額は、137億4705万円。うち一般会計は98億円で、前年度から7億4700万円の減（△7・1％）です。

減額の主な要因は、予算編成時期と町長選挙が重なったことで、一部の新規事業を除き骨格予算（政策的経費を除く、経常的な経費を中心に編成した予算）となったためです。政策的経費などは、今後、補正予算として提案される見込みです。議会としては、提案

される各事業の必要性や財源の裏付けなどを慎重に審議し、適正かつ効果的かどうか厳正に審査を行ってまいります。

## その他の主な事業

- \* 小中学校理科室エアコン設置事業 **【1276万円】**  
使用頻度が高い特別教室（理科室）の環境を整える。
- \* G I G Aスクール端末更新事業 **【3261万円】**  
小・中学生の学習指導用パソコン端末を更新する。
- \* 防災倉庫建築事業 **【3099万円】**  
防災備品などを集約・管理する倉庫を整備する。

**森林資源航空レーザ計測  
及び解析事業** **2億123万円**

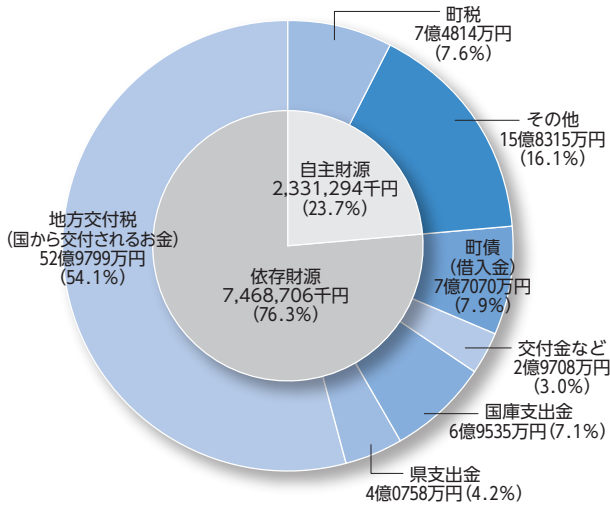
**海洋センター大規模改修事業**  
**2億649万円**

**海洋取組促進事業** **500万円**

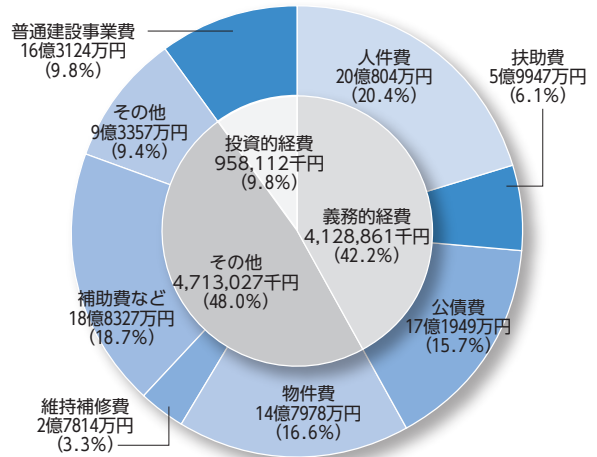
**岩泉射撃場整備事業**  
**1872万円**

# 一般会計 98 億円の内訳

## 歳入(入ってくるお金)



## 歳出(支払うお金)



当初予算の概要

◇ 財政用語

〔地方交付税〕町の財政力に応じて国から交付されるお金

〔国庫・県支出金〕町が行う事業に対して国・県から交付されるお金

〔町債〕事業の財源に充てるため国などから借りたお金

〔人件費〕職員の給与や医療費助成

〔扶助費〕児童手当や医療費助成

〔公債費〕事業を行うときに借りたお金の返済金

〔物件費〕旅費や消耗品費

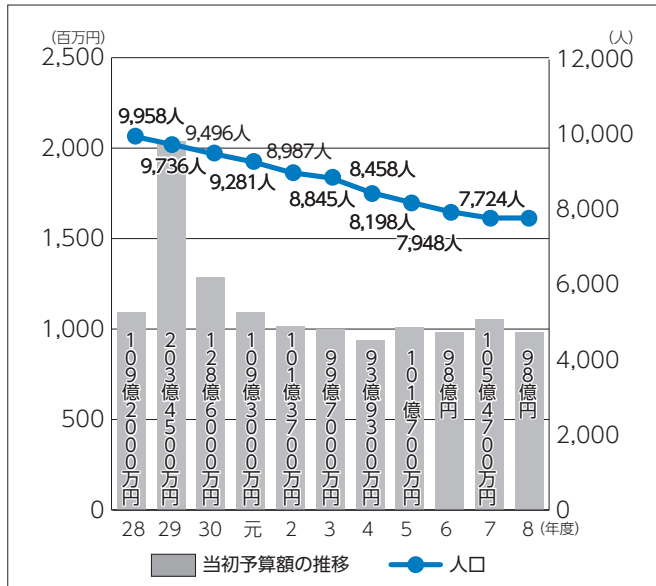
〔維持補修費〕公共施設の維持・管理費

〔補助費〕補助金や交付金など

〔普通建設事業費〕道路や学校などの建設費



## 一般会計当初予算と人口の推移



## 8年度 各会計の当初予算額

会計名		予算額	伸び率
一般会計		98億0000万円	△7.1%
特別会計	国民健康保険 事業勘定	10億1270万円	△4.3%
	国民健康保険 診療施設勘定	6140万円	60.7%
	後期高齢者医療	1億6000万円	7.9%
	介護保険 事業勘定	14億1910万円	△2.0%
	介護保険 サービス事業勘定	1230万円	0.0%
	観光事業	2億0330万円	16.1%
大川財産区		470万円	△2.1%
合計		126億7350万円	△5.6%
水道事業 (公営企業会計)		5億9751万円	△13.9%
下水道事業 (公営企業会計)		4億7604万円	47.0%

## ますの声



昆野佳和さん (岩泉)

**アリーナの劣化 みんなが安全に**

定期的にアリーナを使用していますが、フロアの劣化などが気になっていました。様々な競技に対応でき、みんなが安全に使用できる施設になることを望みます。

## ますの声



澤口貞治さん (小川)

**技術向上に活用したい**

有害駆除対策に加え、クマの出没が多発しており、ハンター の技術向上が求められていると思います。ライフル射撃場が整備されたら、活用したいと思っています。

次は、新年度予算審査特別委員会



# 70周年記念事業

## 歴史を紐解き 未来へつなぐ

新年度予算等審査特別委員会（畠山昌典委員長）は3月16日から19日まで4日間の日程で開きました。  
審査の中では、町村合併70周年関連事業や森林資源航空レーザ計測及び解析事業などへの質疑がありました。  
ここでは、いくつかの内容を要約してお伝えします。

### 70周年 70周年事業の内容は 記念式典と記念誌費

**問** 70周年記念事業1200万円の大まかな内訳は。

**答** 記念式典受賞者記念品35万円、祝賀会費50万円、式典開催費100万円、バス借上料50万円、式典出演団体謝礼20万円、記念誌代180万円、新聞広告210万円、世帯配布記念品300万円である。

**問** 町村合併70周年の記念に岩泉町の発

展を描き、歴史を積み上げてきた方に何か喜んでもらいたい。ヨールト工場まつりでは、有名な方を呼ぶようであるが、ぜひ、そこに70周年記念事業として、高齢者のバスを用意し高齢者の席を設け、楽しんでもらえるようにできないか。

**答** 各地区のイベントで、70周年の冠をつけ、高齢者の方々も喜ぶ場面を設けている。町の事業もヨール

### まの声

記念イベント 山本妙子さん  
やって欲しい (小川)

人が集まる何かのイベントをやってもらえれば嬉しいです。足元に不安があるので、車を出していただくとありがたいです。



ルト工場まつりも、一体のものとして70周年をお祝いする事業である。バスや席の確保については意見として伺い検討する。スケジュール、予算的に間に合うものであれば、意見をいただきながら改善していきたい。

### 一般会計 総括質疑

総括質疑とは、審査する案件全般に対して行うもの。一般会計予算案に千葉泰彦委員が総括質疑を行いました。内容を要約してお伝えします。



千葉泰彦委員

**問** 3月末で任期満了を迎える副町長と教育長のこれまでの尽力に深く感謝する。これまでの町政の在り方と、佐々木町長が掲げる今後の町政とは、具体的に何がどのように変わるのか。現時点での町長の考えを端的に伺いたい。

# バス スクールバス混乗こんじょうの概要は 事前登録で実証運行を開始



公共交通の創意工夫が求められます。

**問** 来年度から一部地域で開始されるスクールバスへの一般住民の混乗計画の概要は。

**答** 4月から大牛内地区で実証運行を開始。対象は自家用車のない65歳以上の事前登録者に限定する。登校時のみの既存の運行経路で実施する計画である。

**問** 混乗開始にあたり、保護者との合意形成や車内秩序を守るための対策はなされているか。

**答** 保護者説明会で合意を得ており、利用者には飲酒・暴言の禁止や運転手の指示に従う旨の誓約書を提出させる。登録者情報を学校側と共有し、丁寧な対応で開始する。

## 漁業 放流事業の強化を 回復に努めている

**問** 工事が終わり水質が改善した小本川水系において、魚影を取り戻すために放流事業を強化すべきでは。

**答** 漁協の義務放流への補助に加え、台風災害からの資源回復を目的とした補助金を昨年度から3年間交付

しており、放流数の拡大と資源回復に努めている。

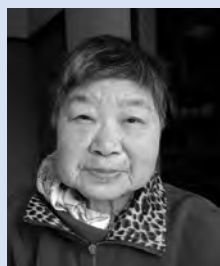
**問** 漁協への魚種の追加の働きかけは。

**答** 議会からの要望を伝えつつ検討を促したい。

### ますの声

伊藤セツさん (小本大牛内・86歳)  
スクールバス混乗  
通院にありがたい

以前からスクールバスに空き席があり乗せてくれないものかと思っていました。予約すれば町民バスが来ますがバス停までかなり遠く予約し忘れたり使いにくいです。スクールバスに乗せてもらえると通院の時にありがたいです。



## 狩猟 3種類のシステムの内容は 狩検知・報告・共有システム

**問** 3つの有害鳥獣対策システムの内容と、それぞれの端末台数を伺いたい。

**答** 「捕獲検知システム」は、わな周辺に設置する遠隔カメラ端末経費で、安全な場所から現地の状況を確認できるもの。「捕獲

### ますの声

昆啓一郎さん (岩泉)  
川の生き物たちには  
豊かに育て欲しい

河川の台風被害の復旧も終わり、川の生き物たちは豊かに育てほしい。そのために、プラゴミを捨てないなど自然を守ろう。河川を生かしたまちづくりは、次のステージへと考える。それは「川の駅」構想です。



町長 人口減少や経済停滞など、昭和のような右肩上がりの成長が望めない厳しい現状を正面から受け止める。これまでの町政を否定するものではないが、過去の慣例に縛られるのではなく、山積する課題に対し「挑戦(チャレンジ)」する姿勢を鮮明に打ち出したい。具体的には、役員内の閉塞感を打破し、職員が前向きに取り組める環境を整え、定住対策や雇用創出、子供たちの未来を守る施策に一丸となって取り組む。議会との情報共有を密にし、風通しの良い対話を通じて町民の応援を得ながら、一致団結して町の活性化を図ってまいりたい。



佐々木真町長

次は、条例補正予算等審査特別委員会

# 龍泉洞で歓迎

## 観光客の滞在時間が課題



インバウンド客を迎える通訳ボランティア（Agents Dragon Blue）のみなさん

条例補正予算審査特別委員会（千葉泰彦委員長）は3月9日と10日の2日間、付託された岩泉町過疎地域持続的発展計画の策定に関する議案、財産の貸付2件、条例9件、指定管理（※）に関する議案7件、補正予算5件を審査。全ての議案を可決すべきものと決定・同日の本会議において原案どおり可決しました。

審査では、指定管理に関する審議で、予算額が大幅に増額となっている理由を追及しました。当局からは、物価高騰や人件費の増額が主な要因であるとの説明があり、活発な質疑応答が交わされました。

ここでは、特別委員会の審査の中からいくつかの内容を要約してお伝えします。

### 光 滞在時間延長の対策は 観 町内事業者と共に検討

**問** 龍泉洞への観光客の滞在の時間を長くする対策を講じているか。

**問** 龍泉洞の園地内に町内業者が出店できる施設や仕組みを作る考えは。

**答** これまで大通り商店街やふれあいらんどなど、点から線への取組みをしてきたが大きな成果には繋がっていない。

**答** イベント時には出店してもらっているが、夏場の繁忙期を主にした出店などを町内事業者の皆さんと検討する。

### まのすの声

#### 資源を最大限活用し 魅力発信に取り組む

この度、観光協会事務局長に就任しました。龍泉洞を中心とした岩泉町の観光資源を最大限活用しながら、町の活性化・魅力発信に精力的に取り組んでいきますので、よろしくお願ひします。

中野哲也さん  
（岩泉町観光協会・事務局長）



### おしえてぴーちゃん



#### （※）指定管理って？（指定管理者制度）

「公の施設（図書館、体育館、公園など）の管理を、町などの行政だけでなく、民間企業やNPO法人などにも任せられるようにする制度」のことです。

2003年の地方自治法改正によって導入されました。それまでは、管理委託先が公共団体や外郭団体に限られていましたが、この制度によって「株式会社」や「市民グループ」なども管理運営ができるようになりました。

## 教育 高校PRのノウハウを効果的方法取り入れる



たくさんの入学生を待ち望んでいます。

**問** 岩泉高校いわて留学の契約内容は実績に基づいた契約になっているか。

**答** メニュー化された内容から選択する形式となっている。「地域みらい留学」「おためし地域留学」などのメニューがあり、東京でのフェアやウェブ説明会のセッティング、高校のPRなどが含まれている。

**問** 委託ではなく、町内でノウハウを蓄え、経済循環ができるようにすべきではないか。

**答** 現在の委託先は全国に岩泉を宣伝していくための「場」を提供してもらっている。今後業者と情報交換しながら、全国の中学生の目にとまるような効果的な方法を取り入れていきたい。

## 愛土館 復興のシンボルの現状は 地元発信拠点として振興

**問** 小本の魚を供給する復興のシンボルとして期待された施設について、現在の利用状況はどうか。

**答** SNS発信により外部客も訪れているが、不漁時は品薄に見えることもある。今

後は小本浜のブランド発信拠点として、漁業振興のシンボルとなるよう応援していく。

**問** 地元産品の付加価値を高め、地域の稼ぐ力を向上させるためにどのような展開をしているか。

**答** 蓄養ウニのふるさと納税への掲載や市場への出荷、町外の飲食店への供給など、新たな販路拡大と高付加価値を進めている。

**問** 黒字化した場合に委託料減額の検討は。

**答** 町の支援が不要な状態になった場合は、当然ながら減額を検討することになる。



地元産の蓄養ウニのブランド化を期待

## 育児 小ども誰でも通園制度とは 就労の要件を問わない制度

**問** 今回の条例改正で新設される「特定乳児等通園支援事業」の内容は。

**答** 令和8年度から就労要件を問わない「こども誰でも通園制度」が全国一律で実施されることに伴い、町の基準に当該事業を追加するもの。

**問** 対象となるこどもの年齢や、利用時間の上限は。

**答** 対象は0歳6か月から3歳未満の子。現在の国の基準では、利用時間の上限は月10時間までとなり、1時間単位での利用を可能とする方向で調整中である。

### ますの声

#### 新制度助かる 手続き簡易に

中村弥生さん (岩泉)

私も子どもが三人いて、まだ一人こども園に通っていますが就労要件なくても入れるのはとっても助かると思います。ただもっと簡単な手続きなら良いかな。

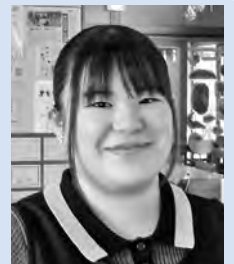


### ますの声

#### また来て頂きたい 笑顔を手掛かりに

金澤優美さん (小本・愛土館従業員)

土曜日、日曜日と食堂は大忙しで大変ですが、また来て頂きたいとの想いで、どんなに忙しくても笑顔と大きな声で気持ちのいい対応を常に心掛けています。



次は、町の考えを問う

## 一般質問

8人の議員が登壇



## 町の考えを問う



一般質問全文は、町ホームページで公開しています。  
スマートフォンはこちらから。

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問をたずねること。報告や説明を求めることです。  
3月定例会では、8人の議員が登壇し、町政課題への提言や質問を行いました。

ここでは、質問と答弁を要約した内容（14ページから18ページ）を登壇順（質問順）にお知らせします。

みたちひさし  
**三田地久志 議員**（15ページ） ● 一次産業の振興策を  
\* その他の質問  
町政運営の基本姿勢について

はたけやま まさのり  
**畠山 昌典 議員**（15ページ） ● 産業振興への対策は  
\* その他の質問  
子育て・住環境整備について まちづくり体制について

こまつ  
**小松ひとみ 議員**（16ページ） ● 住民参加で魅力拡大を  
\* その他の質問  
防災・減災対策について

はたけやま かずひで  
**畠山 和英 議員**（16ページ） ● 仕事づくりどう取組むか  
\* その他の質問  
地域新電力とJ-クレジットについて 新たな特産づくりについて  
国・県道未改良区間の整備促進について 町長のリーダー論と人材育成方針について

みたちやすまさ  
**三田地泰正 議員**（17ページ） ● 農業振興公社の強化策は  
\* その他の質問  
次期総合計画の策定について 畜産・酪農振興について  
子育て支援と教育の充実について 農地政策・有害鳥獣対策について

おおやま ゆきまさ  
**大山 幸真 議員**（17ページ） ● 地域新電力のリスクは  
\* その他の質問  
畜産・酪農振興について

はやしぎきょうじろう  
**林崎竟次郎 議員**（18ページ） ● 子どもの均等割ゼロ円に  
\* その他の質問  
地域新電力について

ちば やすひこ  
**千葉 泰彦 議員**（18ページ） ● 岩泉町の生き残り戦略は  
\* その他の質問  
持続可能な行財政基盤の構築の戦略 岩泉の潜在能力を生かした成長戦略  
民意の再定義と若年層へのアプローチ 「社会的インパクト」による評価軸の転換  
判断基準「岩泉町に必要か」を共通認識に



三田地久志 議員

一般質問・答弁  
全文はこちらから



## 問 一次産業の振興策を

## 答 積極的にチャレンジ

**問** 町長は町政運営の基本姿勢として、産業振興や交流人口の拡大、定住対策を重視した「仕事」「安心」「未来」を三つの柱に掲げている。

**私**は、一次産業が元気でなければ二次・三次産業の発展はないと考える。かつて酪農で栄えた本町だが、現在は第三セクターの恩恵が町民に限定的であると感じざるを得ない。今後は、支援が手薄だった田・畑作にも注力し、本町の地形を活かした「有機農業」に特化することも考えて

はいかがが。アユの養殖や築の設置など、地域の素材を有効に活用した施策をすべきでは。

**町長** 本町が持つポテンシャルは高く、誇るべき地域資源に恵まれ



厄介者の竹林を資源に。獣害を防ぐ「竹垣」と、有機農業を支える「竹炭」へ有効活用を。

17文字のひとりごと

産業の振興こそが町づくり

ており、特に一次産業は、町の基幹産業として、これからも発展していく可能性を有し、町を元気づける起爆剤になりうるものと認識している。有効と思われる施策については、積極的にチャレンジし、産業基盤の更なる強化を図ってまいりたい。

## 問 産業振興への対策は

## 答 伴走支援制度を構築

**問** 町の1次産業は、担い手の高齢化や後継者不足による廃業が相次いでいる。起業支援や事業承継など問題を解決し、持続可能な産業振興のための具体案は。

**町長** 若者が本町において安心して就業し、



畠山 昌典 議員

一般質問・答弁  
全文はこちらから



新たなスタートを、町が応援します。

自らが夢見る未来の1次産業を実現できる仕組みを構築する必要がある。就業を目指す方を応援するチャレンジ資金制度を創設し、さらにフォロアアップの体制も作り、伴走支援を継続できる制度の構築を検討する。

**町長** 子育て世帯の経済的負担を少しでも軽減するため、小学校・中学校入学時に5万円、中学校卒業時に10万円の地域商品券を支給する制度設計を進める。

**問** 所信表明で「子どもたちの安心した学び

17文字のひとりごと

まちづくり  
一人ひとりが  
プレイヤー



小松ひとみ 議員

一般質問・答弁  
全文はこちらから



## 問 住民参加で盛り上げを

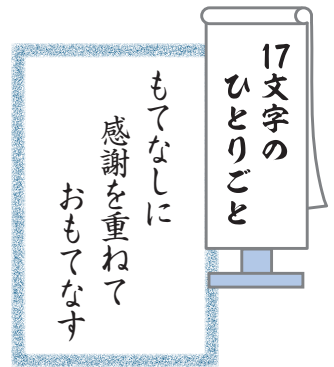
## 答 意見交換をし実施する

**問** 町政施行70周年を契機に住民が力を合わせ龍泉洞を盛り立てる企画を促す取り組みはどうか。観光とは、その地元の方と触れ合うこと。訪れた人々は交流や言葉を交わすことを望んでいると思う。

**答** そこで、園地内に期間限定で簡易販売所などの区画を作り販売できる場所や機会を設けてはいかかが。広い本の町の各地域における特色ある商品の出店が期待できる。観光客との触れ合いは多くの気づ



沖縄からのお客様（大学生）  
「龍泉洞は素晴らしい！  
たくさんPRしますね」



きをもたらすはずだ。龍泉洞園地は魅力満載でたくさんさんのメリットがある。町長の所見を伺う。

**町長** 龍泉洞は全国から年間16万人を超える観光客が訪れる町の宝、町民の宝。7月から8月は入洞者が多く、食事サービスの提供に課題を感じており、既存の販売小屋の利用やスペース利用の詳細を協議する。観光客の皆様のおもてなしの向上を図るためにも非常に有益であり、来訪者の滞在時間を伸ばす工夫としても町民、関係者と意見交換しながら実施していく。

## 問 仕事づくりどう取組むか

## 答 総合的な相談体制を構築

**問** 商工業の活性化と持続可能な経済循環のため踏み込んだ支援が必要だ。さらに起業と歴史をつなぐ事業承継の支援策をどう考えていくのか伺う。

**町長** 商店街の活性化につながる空き店舗を活用した起業。新たな事業化につながるお試し店舗を開設し、希望者が自らの経営を確立していける事業を創設する。

事業承継は、岩泉商工会と連携し、事業の譲渡人、譲受人の登録制度化など町独自の相談窓口を設けるほか、U・イターン等を促しながらマッチングを進めながらマツチングを進めていく。



220人余を雇用する  
誘致企業「岩手アライ株式会社」

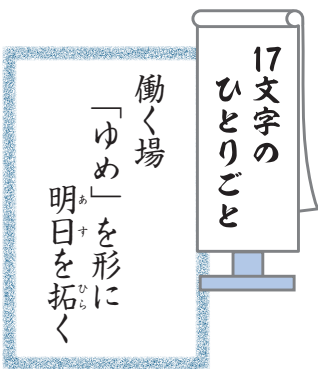
**問** 企業誘致の推進戦略は。

**町長** 旧校舎等遊休施設の活用をはじめ、テレワークを行えるスペースの設置によるワーケーションなど新しい働き方に対応した企業誘致は大きな可能性を秘めている。岩泉の強みを最大限に生かした環境づくりに取組んでいく。



畠山 和英 議員

一般質問・答弁  
全文はこちらから





### 三田地泰正議員

一般質問・答弁  
全文はこちらから



**問** 本年は岩泉乳業操業開始20年、岩泉HD設立10周年の節目。酪農家の高齢化、乳用牛の減少が懸念される中、大牛内育成牧場の今後と農業振興公社の体制強化策を伺う。

**町長** 酪農家は65戸から17戸に減少したが、

## 問 農業振興公社の強化策は 答 業務分析や調査をし対応

1戸当たりの飼養頭数や搾乳量の増加により今後は緩やかな減少と想定。大牛内育成牧場は農家の希望を踏まえ新築整備を検討する。農業振興公社は財源不足を補う必要があり、業務分析を行い体制を強化する。



大牛内育成牧場の牛舎内順調に育て欲しいです

うに対応し、その成果をどう受け止めているのか伺いたい。

**町長** 令和7年度は新入生41人で2クラス制であったが、令和8年度の入学志願者は40人と発表があり、一歩及ばなかった。「いわて留学」応募者に岩泉高校を希望する生徒は残念ながらなかったが、今後これらの事業を通じて県外との交流人口を増やしてまいりたい。

**問** 岩泉高校の2クラス制の継続が極めて重要である。「いわて留学」事業や「地域みらい留学制度」にどのよ

17文字の  
ひとりごと

枯らさずに  
花が咲くまで

政策だ



一軒一軒、暮らしを量っています

**町長** 専門家を招いた経営分析や部門ごとの課題解決など経営改善に取り組み、町の農業を先導する組織としてまいりたい。

**問** 農業振興公社の経営健全化や改革に向け、どのように働きかけ、指導や助言を行っていくか。

**問** 昨今のエネルギー市場の激変により、全国の自治体新電力は「逆ざや」による赤字や撤退が相次いでいる本町の財政規模において、一度経営が破綻すれば、その影響は計り知れない。町民の貴重

**町長** 再生可能エネルギー活用と地域新電力の設立は、地域経済の循環や脱炭素化に向け

## 問 地域新電力のリスクは 答 事業採算性を見極める

な公金を投じる事業として、その不確実性とリスクを看過することはできない。



### 大山 幸真議員

一般質問・答弁  
全文はこちらから



17文字の  
ひとりごと

逆ざやの  
波に飲まれぬ  
策を問う

た重要政策である。経営安定化には再エネによる自主電源確保が不可欠。委託先の知見を活かして価格高騰リスク等に対処し、町民への説明会等で理解を図りつつ事業採算性を慎重に見極め、本町の実情に合った検討を引き続き進めたい。



岩泉小学校の入学式前の様子。子育ての負担軽減が望まれる。



林崎 竟次郎 議員

一般質問・答弁  
全文はこちらから

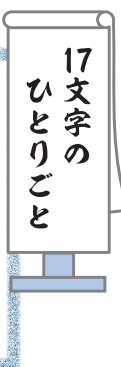


## 問 子どもの均等割をゼロ円に

## 答 慎重に検討する必要がある

**問** 町国保税には、加入する家族が1人増えるたびに数万円ずつ保険料が増える均等割の仕組みがある。子どもの均等割は、子どもの

**答** 貧困対策にも子育て支援にも逆行するものだ。国は子どもの均等割の負担軽減の制度を作ったが小学校入学前の子供に限って半額に



国保とは  
病を治し  
防ぐなり

するだけだ。本町は保育料、子どもの医療費、学校給食費などの「子育て支援3つのゼロ」を進めているが国保税は独自の対策を行っていない。町独自に子どもの均等割負担をゼロ円にすることを求める。

**町長** 被保険者数を勘案した加入世帯の所得額が算定基準を下回る場合、被保険者の均等割と平等割について軽減措置を行っている。今後においても、診療報酬の引き上げが見込まれる中、国保会計の運営や、さらには被保険者間の公平性の在り方なども踏まえ慎重に検討する必要があると考えている。

## 問 岩泉町の生き残り戦略は

## 答 定住を軸に人口減少対策



千葉 泰彦 議員

一般質問・答弁  
全文はこちらから



**問** 2050年に4,099人。人口激減を前提に、織り込み済みでインフラ最適化すべきでは。

**町長** 人口減少を見据え、ランニングコスト、町財政も考慮し、計画を見直す。

**問** 町長選挙の絶対得票率38%は、我々議会も含めた町政に対する

**町長** 地域力も借り、コミュニティーに影響がないよう、手立てを講じる。

**問** 4,099人では5支所の維持は困難。ICT利活用による人の繋がりの確保策は。

満足度の低さ。執行すれば達成の「ぬるま湯」から脱却し、町の存続をかけた評価軸の転換を求める。

**町長** 次期総合計画は、町民の生活実感や評価の柱に据える。若い人が期待を持てるよう、新たな評価軸を設定する。



語り部は近藤涼菜さん（岩泉高2年）  
世代を超えて町の歴史を紡いでいきます



公職は  
いつも本番  
待ったなし

## 施策要望

# 公共交通体系の再構築を 10項目の施策を町に要望

町議会と町議会政務調査会（合砂丈司会長）は8年3月9日、8年度の町の施策に対する要望書を提出しました。  
公共交通体系の再構築など10項目を要望しました。



要望書を佐々木町長へ手渡す八重樫議長

### 要望事項

#### 町の公共交通体系の再構築を

▽毎年、スクールバスと町民バスの運行コスト、乗車状況を評価・講評すること▽事業の統合、最適化の検討▽デマンド交通と町民バスの二重施策地域の早期解消

現役世代の住宅対策を子育て応援住宅、宅地造成など現役世代への住宅支援施策の拡充を

#### 災害対応力の強化を

「強靱な地域づくり」推進するため、指定避難所の非常用電源や空調設備など環境改善を

#### クマなど野生鳥獣管理対策の強化を

▽「専門管理職員」な

どの野生鳥獣管理担当組織体制の充実強化を  
▽春季・通年猟期の捕獲設定など、駆除・捕獲の強化を  
▽有害鳥獣から農作物などを守るため防御対策の強化を  
▽早急に「緊急猟銃制度」が実施できる体制を  
▽有害鳥獣出没情報の把握・提供を

DXの推進と行政サービスの利便性の向上を

上下水道事業の事業効率改善を

国道340号等県管轄幹線道路整備促進活動の継続強化を

畜産・酪農振興と農業振興公社の経営改革を

龍泉洞を起点とした観光振興策の強化を

既存事業者の所得拡大策としての産直、ふるさと納税返礼品の一体的機能強化再構築を

次は、  
常任委員会レポート

## 傍聴者の声

3月定例会の傍聴者は延べ15人でした。傍聴された岩泉の長澤さんから感想や議会に対する声を聴きました。



長澤 潤一さん  
(岩泉)

### 議会には厳しい 監視を期待します

新町長の熱意と、町が大きく変わろうとしている手応えを感じている傍聴でした。

一方、議員の質疑の鋭さには差があり、議会が追認機関に陥りやすい問題も重なって見えました。

次期総合計画や地域新電力など、私たちの暮らしに直結する議論が本格化する今、各施策が本当に町民の利益となるのか、議会には馴れ合いを排した厳しい監視を期待します。

いわいずみ議会だより 第214号  
令和8年4月21日発行

総務・産業

# 「岩泉町未来づくりプラン」 （岩泉町総合計画）を検証する



公園で笑顔を見せる3人  
大きく育て、町の希望

岩泉町では、町の将来像を実現するための総合計画「岩泉町未来づくりプラン」に基づき、様々な施策を展開しています。

今回、議会では、総務常任委員会と産業常任委員会合同で、町民の皆様の生活実感と行政の取り組みが本当にマッチしているのか、KPI（重要業績評価指標）を軸に検証を行いました。

## 「三位一体」で町の未来を描く

目標と現実のズレ、縦割りを超えた連携の必要性、若年層・現役世代の声を聴く重要性という3つの課題が見えてきました。町の未来は、行政・議会・町民の「三位一体」で創るものです。対話を重ね、皆で一歩ずつ理想の形へ進む必要があります。

## 議会が見つけた3つの重要課題

町の総合計画は、大きく3つの大きな「花」に例えられています。併せて地域別の振興計画もたてられています。

- ✳️ 生きがいの花（健康・福祉・教育・文化）
- ✳️ 暮らしの花（生活基盤・安全・環境）
- ✳️ なりわいの花（産業・雇用・観光）

◆ 地域別振興（各地域の特色ある取り組み）

検証の結果、大きく3つの課題が浮かび上がりました。

第一に、設定された数値目標が町民の実感と合っているか、絶対値だけでなく質やカバー率も重視すべきではないかという点。

第二に、高齢者福祉とスポーツ振興、教育と地域活動など、部門を超えた協力が不可欠であること。

第三に、転出超過の現状を変えるため、若年層・現役世代の真のニーズを把握するアンケート手法の工夫が必要です。

これらの課題に取り組むことで、より実効性のある計画に近づけます。

あじぞ  
ぴーちゃん



「KGIとは…」  
Key Goal Indicator（キーゴールインジケーター）の略で、日本語では「重要目標達成指標」と訳されます。

「次の定期テストで、英語で90点を取る!」という目標。これが「最終ゴール（KGI）」です。

「KPIとは…」

Key Performance Indicator（キーパフォーマンスインジケーター）の略で、日本語では「重要業績評価指標」と訳されます。KGIを達成するための方法が、適切に実施されているかを定量的に評価する指標のことです。

「次の定期テストで、英語で90点を取る!」ための「KPI」の例

- ・単語帳を毎日5ページ進める。
- ・問題集をテストまでに3周する
- ・リスニングアプリを毎日15分聴く

1週間経って「単語帳が2ページしか進んでいない」とわかったら、「このままじゃ90点は無理だ!もっとペースを上げよう」と対策が打てますね。

### 健診・食育・見守りの再検証と 民間連携の可能性の検討を

健康診断の受診率、子どもの朝食欠食問題、高齢者の見守り体制について検証をしました。

特定健康診査では、社会保険加入者や人間ドック受診者を正確に把握できているか疑問が残ります。朝食欠食問題は、教育の視点でネグレクト対応も含めて扱うべき

ではないでしょうか。

高齢者支援では、地域支え合い事業や介護予防教室など複数の活動がある一方、どの活動にも参加していない独居高齢者の実態把握が不十分です。岩泉町社会福祉協議会等との連携で、空白地域への対策を戦略的に進める必要があります。

### 移動と防災の再構築と 岩泉町の持続可能な支援策を

公共交通の利便性向上と消防団員の確保が主な課題です。

町民バス・デマンド交通では、路線ごとの利用状況分析ときめ細かな目標設定が必要で、予約が難しい高齢者への対策として、福祉的なサポートも検討すべきでしょう。また、町内だけでなく町外への移動サポートの二

ズにどのように応えるか課題が残ります。

消防団については、機能別消防団と通常消防団の役割分担を明確にし、勤務先地域の分団へ緊急応援出動できる体制づくりが重要です。

KPIの抜粋

	R8 目標値	R6 実績値
特定健康診査受診率	58.0%	55.5%
地域支え合い事業活動団体数	7団体	4団体
生徒(中3)の朝食欠食者	0人	3人

KPIの抜粋

	R8 目標値	R6 実績値
デマンド交通地域	3地区	2地区
消防団員数(機能別消防団員含む)	520人	446人



KPIの抜粋

	R8 目標値	R6 実績値
新規就農者数	12人	8人
農地集積取り組み集落数	10集落	6集落
主要水産物生産額	23,100万円	3,453万円

地域力診断の一部

色分け	行政区の数	占有率
災害リスクが3つ	7	6.7%
災害リスクが2つ、かつ高齢化率≥60%	8	7.6%
災害リスクが1つ、かつ高齢化率≥60%	23	21.9%
災害リスクが2つ、かつ高齢化率<60%	20	19.0%
災害リスクが1つ、かつ高齢化率<60%	35	33.3%
災害リスクなし	12	11.4%



### 農林水産の持続可能性と 観光・雇用の新戦略を

農林水産業の持続可能性、観光振興の具体化、雇用の確保が課題です。

農業では耕作放棄地バンクの活用推進、区画整理の現状報告、遊休設備の活用策が必要。林業では新規就業者数、作業道総延長距離、原木・菌床椎茸生産量などの新指標を提案し

ます。

水産業では内水面漁業の指標設定が求められます。

観光面では、市場規模や主要客層の調査に基づく事業化、観光地園地への小規模売店や屋台出店スペース設置により、町内事業者の販売機会を創出すべきです。

### 地域力の可視化と 地域振興協議会の在り方の検証を

6地区それぞれの実態を把握し、地域振興協議会のあり方を見直す時期です。

議会は、各地区で「地域力診断」を実施し、重点課題を特定したうえで、地域振興協議会の活動内容を見直すことを提言します。

集落支援員の具体的な業務が不明確なため、各地域の課題に応じた業務の特定が必要です。

若者会議の定期開催やSNSでの意見聴取など、若年層の声を聴く仕組みも重要です。

# 議会だより7年連続受賞 全国6位・県2位

いわいずみ議会だより第210号（7年4月10日発行）が、第40回（令和7年度）町村議会広報全国コンクールで優良賞（第6位）を受賞しました。

全国町村議会協議会が主催する同コンクールには全国から331点が応募。この中から選ばれたものです。令和3年度には第1位、4、5年度は第2位など7年連続の受賞です。

岩手県町村議会広報コンクール（応募総数13）では、第212号（7年10月17日発行）が、入選1席（第2位）を受賞しました。

取材にご協力いただきました皆様へ深く深く感謝申し上げます。



これからも議会だよりをどうぞよろしくをお願いします。

## 議員は何してんのや

議員や議会は何をしているの？という声を聞きます。ここでは、議会や議員の主な活動状況をお知らせします。（全日程はQRコードで）



議会の動き

- 1月
- 9日 議会運営委員会（役場）  
議会全員協議会（役場）  
第1回臨時会（議会議事堂）
  - 11日 岩泉町二十歳のつどい（町内）
  - 16日 国道340号宮古岩泉間整備促進期成同盟会県要望（盛岡市）
  - 25日 町消防団消防出初式（町内）
  - 30日 ジビエ処理加工施設オープン式典（町内）
- 2月
- 13日 議会運営委員会（役場）
  - 19日 第1回定例会（議会議事堂）
- 3月
- 9日 条例補正予算等審査特別委員会（役場：10日まで）
  - 10日 本会議（議会議事堂）  
広報広聴常任委員会（役場）
  - 12日 一般質問（議会議事堂：13日まで）
  - 16日 新年度予算審査特別委員会（役場：19日まで）
  - 19日 本会議（議会議事堂）

## 議会を傍聴しませんか

次の定例会は、

- 6月11日(木) 一般質問
- 12日(金) 一般質問
- 16日(火) 条例補正予算審査  
本会議

の予定です。

※都合により変更となる場合があります。



どなたでも傍聴できます。ぜひ傍聴へお越しください。

### 編集後記

▽佐々木新町長による新たな町政の展開がスタートしています。▽そして、今年は町村合併により岩泉町となつて70年の節目の年です。▽議会においても、同じく70年を迎えました。▽この間、東日本大震災、平成28年台風第10号豪雨災害などの大災害を経験しましたが、令和7年に県の河川災害復旧工事が完成したところです。▽議会だよりは創刊から53年になりますが先輩各位に感謝しながら、次の節目につないでいきたいです。

広報広聴常任委員

菊池孝広



町HP  
議会だより

### 広報広聴常任委員会

- |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 委員長   | 委員    | 委員    | 委員    | 委員    | 委員    |
| 畠山 昌典 | 小松ひとみ | 林崎寛次郎 | 菊池 孝広 | 斐地 照夫 | 大山 幸真 |

